



## 歯科医・彌勒寺寛之の 後悔しない 歯科治療の受け方

## 第19回 「海外歯科ボランティア ～その2～」

こんにちは。土沢デンタルクリニック院長の彌勒寺です。今回も引き続き2月9日から13日までの間、フィリピンにて行われた歯科ボランティアでの経験談をお話します。

### <現地での診療>

診療日は朝6時起床、7時半にクラクションの喧騒と信号のない交差点に車がひしめくなかをバンで移動し、診療場所であるテヘロ小学校に到着。準備ののち9時から診療を開始。問診部門、予防部門、外科部門、充填（むし歯治療）部門、歯周部門、消毒部門などにわかれ、それぞれが担当の配置につき順次診療し、午後3時に終了という形を2日間行いました。診療の方は、私は診療1日目が充填（むし歯治療）部門、診療2日目は抜歯部門担当でした。

天気恵まれ、診療中は2日もずっと晴れ。外の気温は30度位、診療場所（教室）はそれ以上で、ムシムシして汗だくになりながらの診療でした。現地のフィリピン人歯科医師とペアを組み、交代で診療。私の拙い英語が通じないときは現地語（セブアノ語）で通訳を常時やってもらう形で行いました。



### <PASTA～診療1日目>

診療1日目は、充填（むし歯治療・現地語で「PASTA」）担当でした。治療道具は、日本の往診（訪問歯科診療）で使うような持ち運び可能な小

いスーツケース位の大きさのセットが一応あるのですが、当然日本のリクライニングチェアのような設備はありません。治療台は、よくビーチに置いてあるサマーベット、照明は懐中電灯で照らす、という極めて限られた材料と道具を駆使して行いました。

### <IBOT～診療2日目>

診療2日目の担当、抜歯部門（現地語でIBOT）はもっとシンプルに、患者さんにはちょっと首あてがついた普通の椅子に座ってもらい、術者は立って治療を行うスタイルでした。根っこだけ残った歯を抜くことが多かったのと、子供の乳歯の抜歯が多かったため、特定の抜歯器具（小さめのもの）が足りなくなることがありましたが、ここもなんとかうまくやりくりしていきました。今までの人生で、1日にこんなに多くの歯を抜いたことがない位ずっと抜歯し続け、しかも普段とは違う立ち姿勢で行なわざるを得なかったので、かなり腕と腰にきました。



それ以外にも時間を見つけて歯周部門や予防部門を見学しました。なお、患者さんは2日間で総勢約1800名。過去最高とのことでした。

（次号へ続く）



### ～著者プロフィール～

土沢デンタルクリニック院長 彌勒寺 寛之（みろくじ ひろゆき）1979年東京生まれ  
住所 宇都宮市本丸町11-12 TEL 028-634-5141 (URL) <http://tda86.com>  
所属学会

日本口腔インプラント学会 日本歯科審美学会 日本歯周病学会  
日本小児歯科学会 日本ヘルスケア歯科研究会

※学会で得た知識を活かして、個人的に無料相談室を開設しました。

お口のことで疑問に思っていることなどがありましたら、お気軽にご相談下さい。  
当クリニックのホームページからメールで受け付けています。

（この無料相談室は予告なく終了することがありますので、ご了承下さい。）

